

報 館 おただ

笑顔でかわすあいさつが
岡田のみんなの合言葉



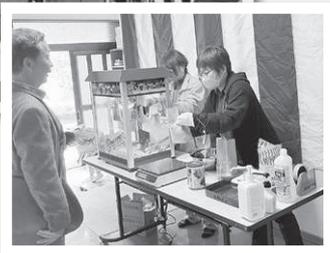
四年ぶりの文化祭

穏やかな秋の日差しのもと、色とりどりの菊の鉢植えが公民館の玄関の前に並ぶ。四年ぶりに戻ってきた光景です。10月29日、岡田町・松岡・神沢・東区の4町会で文化祭が行われました。各会場とも展示スペースと喫茶場所が用意されています。

四年ぶりの開催とあつて、各町会とも準備は手探り状態のようでした。特に作品集めは苦労したようで、出品数は以前の半分以下と聞きました。各町会の様子を報告してまいります。



岡田町



令和元年以来四年ぶりの開催にもかかわらず、丹精込めた見事な菊・小中学生の作品・絵画や書などの力作が多数展示されました。
岡田町ミュージックベルクラブのハンドベルの演奏や岡田希望の家の物販やポップコーンの販売もありました。笑顔あふれる一日になりました。



松岡

四年ぶりに開催された文化祭を取材してきました。午前中の取材のため、観覧者はまだ少ないようでした。公民館長にお話をうかがうと、出展コーナーは写真会による写真・小学校児童の作品・一般の方々による様々な作品を展示しているとの事でした。今回、児童の作品にはPTAの皆様のアイデアで、町会長賞・公民館長賞など五つ程の賞を設けて、作品の盛り上げも実施しております。最後に私事でありますが、普段経験する事が少ない抹茶のおもてなしも受け、印象に残るものでした。

神沢



東区



神沢では四年ぶりに文化祭が行われました。玄関前にはめずらしい盆栽や菊の鉢植えなどが飾られ、来る人々を出迎えています。展示物は小学生のかわいらしい工作・自由研究の発表など、見るからに一生涯命頑張ったのが伝わりました。すばらしい写真の数々・存在感あるラジコンヘリの展示・絵手紙や読書会の発表、それと神沢ならではのりんごの品評会も行われ、小規模ながら内容の充実した文化祭でした。

壁一面に展示された子どもたちの個性豊かな絵や作品が東区の文化祭を盛り上げています。午前中だけでも100名の家族連れが訪れ、昨年の公民館報でも紹介された竹細工の昆虫・押し花の額装・木製品・盆栽など、四年ぶりに戻ってきた皆さんの気持ちのこもった作品に触れることができました。

文化祭を行う理由を各町会の方に尋ねてみました。文化祭は町会の人達の交流の場であつてほしい。それが企画側の思いでした。各町会とも以前は、おでん・ソバ・トン汁などがふるまわれていましたが今回は見送られています。かつては食を通して話が盛り上がっていたのでしよう。小学生の展示も親子連れの参加を多くします。
ある役員の方は、少しずつ以前のようなるまいができる形に戻していきたいと話してくれました。文化祭の目的とするところでしょう。展示や発表は町内の人の意外な特技を知る機会にもなります。来年の文化祭には何か出品したいが、できなくても見に行こうと思いました。

岡田ほっとニュース
 ● 山 浦 ●
 関東大震災から百年

今年には関東大震災から百年。南海トラフ地震は2030年代に発生するという研究もあります。

南海トラフ地震が発生した場合には長野県中部は震度5強という予想ですが、糸魚川―静岡構造線断層帯が連動した場合、松本市の東山部は震度7、松本市は震度6という予想がされています。

震度6以上の地震では耐震構造の木造住宅でも半分以上が倒壊するといわれています。震災が発生したときの住民の避難体制を考えたとき、六助池北側の山の斜面は土砂災害発生危険度が高く、143号線が通行不能になる事態が



六助池の北側斜面

(山浦) 丸山邦博

予想され、杏・安土・新田常会からの車での避難は困難だといふことが想定されます。こうした事態への対応策は山浦地区では策定されていないのが現状です。人間には「正常性バイアス」といって「今まで起こってこなかった・そんなことは起こるはずがない」と考えがちになることがあります。しかし、今までなかったからといって今後も安心ということはありません。こうした事態が発生したときには「高齢者・独居老人」の避難をどう図るか。特に歩くことが困難な方の場合には補助する人数は5人ではとても足りず、理想としては10人が必要となります。しかし、山浦地区においてそれだけの人手が確保出来るかといえども難しい現状があります。今後の町会の課題として考

えていく必要があることの一つであると考えられています。

親子なぞときウォーク
 ～善光寺街道の道祖神を探索しよう～

10月15日(日)



クイズを解きながら岡田の善光寺街道を歩くというイベントで、あいにくの天気でしたが、42名、13組の参加があり皆さんワイワイと楽しそうでした。

クイズの正解率に合わせて順位発表もあり、その中で優勝したチームの1つである太田さん一家、西村さん一家に感想を聞くことができました。

「いっぱい歩いて楽しかったけど疲れた」「クイズが難しかったけどみんなで相談してとても楽しかった」と笑顔で答えてくれました。

このイベントは岡田地区子ども会育成会が主催するものです。他にも年に数回の企画があります。

来年はぜひ皆さん参加してみてください。

(取材・文 浅輪委員)

先日祖父父母が育てたさつま芋で焼き芋大会を行いました。集まった園児から小学生の子供たちは、金時芋、シルクスイート、紅あずまの食べ比べをし、味の違いに驚いたりしながら、ホクホクの美味しい焼き芋を味わいました。

生活雑記

収穫の秋と給食の秋

塩倉 三児の母

自分たちが食べる野菜を作っている農家のみなさんのおかげです。

松本市は子供たちの食育にとっても力を入れていると思います。野菜の栽培が盛んな長野県が故に地産地消が盛んな事はとても恵まれていると感じます。子供

たちは子供たちの食育に調理して下さる給食センターの方々には頭が下がります。我が子が通園する保育園では給食室が園児から直ぐに見え、毎朝給食の先生の所に挨拶をしに行きます。小学校

では、給食センターの方からどのように給食が作られているか聞く会もあるようです。子供たちの食を支えている地産地消の美味しい給食は、調理をしてくれる方々と野菜を作っている農家のみなさんのおかげです。